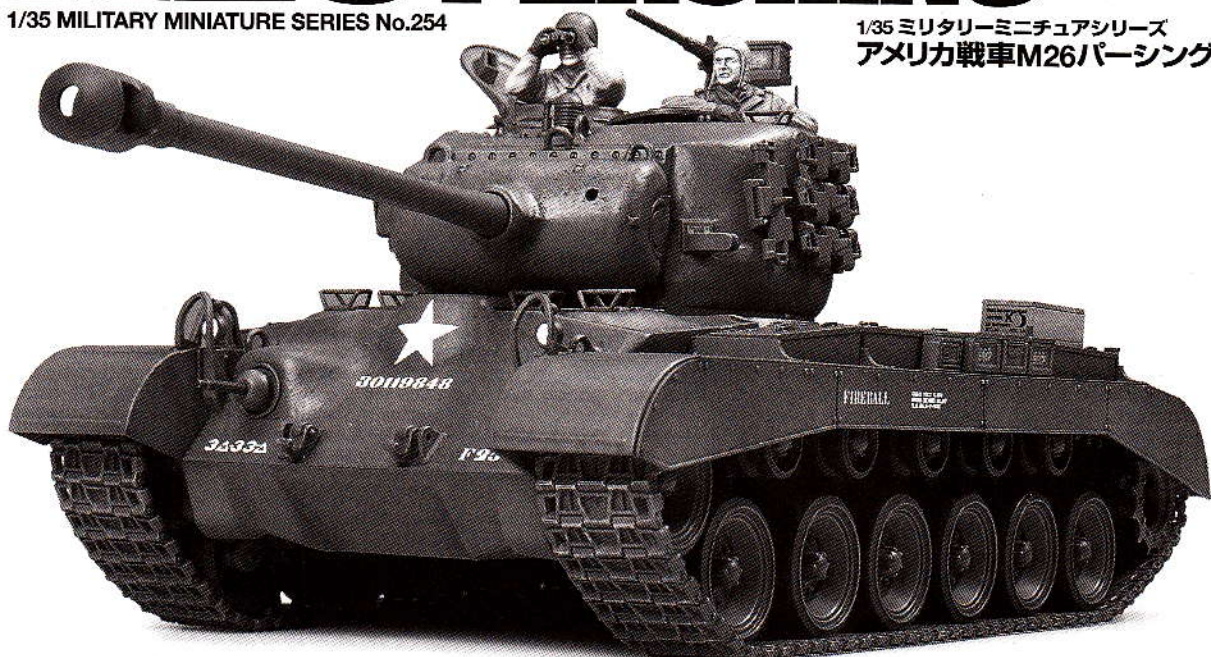


# M26 U.S. MEDIUM TANK (T26E3) PERSHING



1/35 MILITARY MINIATURE SERIES No.254

1/35 ミリタリーミニチュアシリーズ  
アメリカ戦車M26パーシング

## ■M26パーシング

射撃距離1400メートルで厚さ176mmの装甲板を打ち抜く50口径90mm戦車砲。避弾径始に優れる最大装甲厚102mmの車体。そして優れた機動力を生み出す出力500馬力のフォードGAF6002Bガソリンエンジンとトーションバー式サスペンション。第二次大戦中、タイガーやパンサーなど強力なドイツ軍戦車に対抗できる初のアメリカ軍主力戦車として登場し、その後続く現用アメリカ軍戦車の基礎を築いたのが、M26パーシングです。

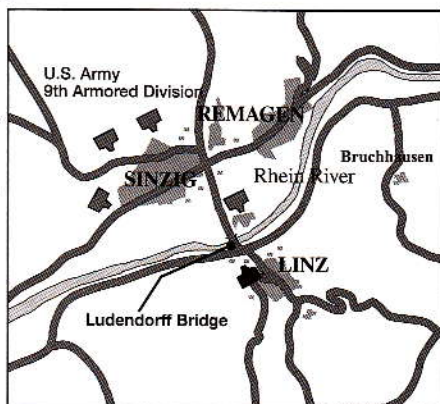
### 《パーシングの開発》

第二次大戦中の1942年4月から1943年5月にかけて、アメリカ陸軍兵器局は主力戦車M4シャーマンの後継車としてT20型試作中戦車シリーズ(T20、T22、T23、T25、T26試作中戦車)の開発計画を立案しました。特に1943年2月、チュニジアにおける戦闘でM4シャーマンがドイツの新鋭重戦車タイガーIによって大損害を被ると、より強力な主力戦車の配備を望む声が高まったのです。このため陸軍兵器局はT20シリーズの中でも強力な90mm砲とトーションバー式サスペンションを装備するT25E1、そして後にM26パーシングへと発展するT26E1の開発に注力。1943年9月には1944年までの部隊配備を目標とする量産計画も立案されましたが、M4シャーマンの量産の継続を主張するパットン将軍など陸軍上層部の反対もあり、T26E1の制式化は棚上げされたのです。しかし1944年6月のノルマンディー上陸以降のヨーロッパ大陸での激戦、特に同年12月のベルギー・アルデンヌにおけるドイツ軍の反攻作戦がこの新型戦車の制式化を大きく後押しすることとなりました。この戦いで多数のM4シャーマンがキングタイガーなどのドイツ軍戦車によって撃破されたことにより、アメリカ軍はT26E1の改良型として開発中のT26E3を急速ヨーロッパ戦線に投入。そして1945年3月、T26E3はM26パーシング重戦車の名称で制式化されたのです。

### 《ヨーロッパ戦線のパーシング》

連合軍がドイツ本国に向けて進撃を続けていた1945年2月、ゼブラ作戦と呼ばれる戦場での実用試験のため、アメリカ第3機甲師団と第9機甲師団に各10輦のパーシングが配備されました。ドイツ軍との戦いでパーシングが初陣を飾ったのは1945年2月26日

から27日にかけてのことでした。第3機甲師団のA機甲戦闘団(26号車、36号車のM26装備)とB機甲戦闘団(24号車、38号車、40号車のM26装備)がケルン付近のライン河にかかるホーエントレレン鉄橋の奪取を目標として進撃を開始したのです。途中のエルスドルフでタイガーIの待ち伏せ攻撃により38号車が撃破されましたが、40号車が射撃距離820mでタイガーIを1輦撃破し、さらに射撃距離約1100mで2輦のIV号戦車を撃破する奮戦ぶりを見せました。そして1945年3月7日には、ボン南方のライン河沿いにある小さな町、レマゲンのルーデンドルフ鉄橋をめぐる戦いにも第9機甲師団第14戦車大隊所属の5輦のパーシングが出動。対岸のドイツ軍防衛陣地に激しい砲撃を加えながら歩兵部隊を支援し、このライン河に唯一爆破されずに残っていた鉄橋の奪取に貢献しました。また3月6日にはケルン市内の戦いで第3機甲師団所属のパーシングがパンサー戦車を撃破、ケルン郊外でも同日に別のパーシングがタイガーIとIV号戦車各1輦の撃破を記録するなど、パーシングはドイツ戦車との戦いでその実力を証明したのです。1945年5月のドイツ降伏までに約200輦のパーシングがヨーロッパ戦線に送られ、第3および第9機甲師団に続いて、第2および第11機甲師団にも配備されました。なおパーシングは1948年10月、アメリカ軍の戦車等級変更により重戦車から中戦車に改称されています。

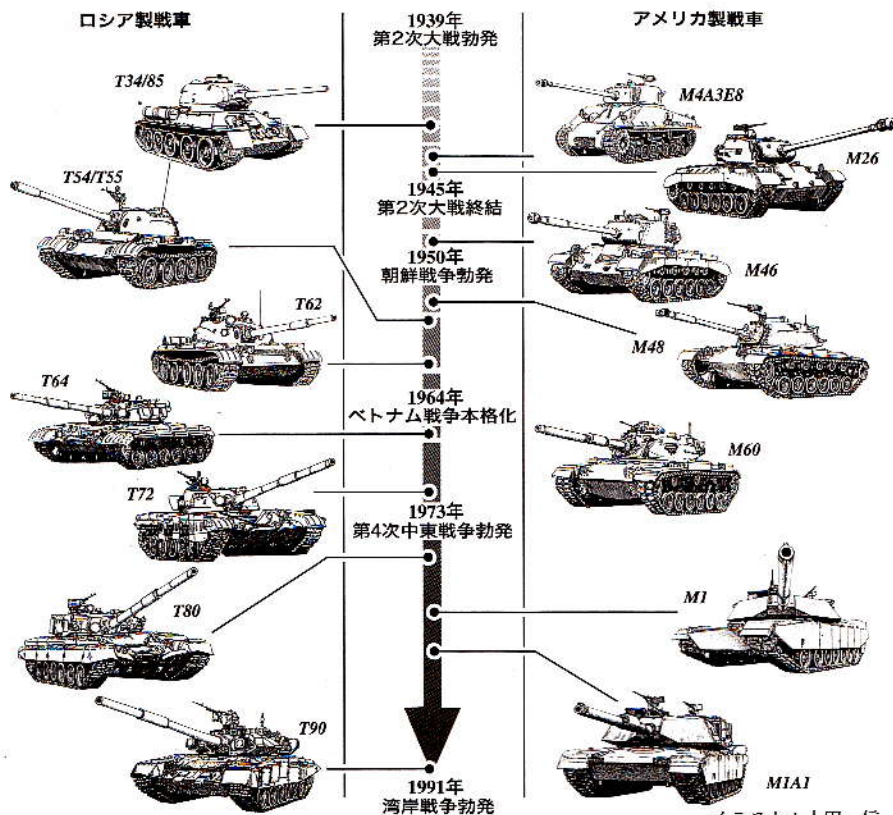


## M26中戦車パーシング / MEDIUM TANK M26 PERSHING

車体重量 / Weight	38.488 t	接地圧 / Ground pressure	0.87kg/cm <sup>2</sup>
乗員 / Crew	5名 / 5	■動力源 / Power source	
全長 / Overall length	8.649m	エンジン / Engine	Ford GAF6002B
全幅 / Overall width	3.513m	排気量 / Displacement	18,026cc
全高 / Overall height	2.779m	エンジン出力 / Output	493PS/2600rpm
登坂力 / Maximum grade	60%	最大トルク / Maximum torque	4 0 2 kg - m / 2,200rpm
回転半径 / Minimum rotating radius	9.449m		

燃料容量 / Fuel tank	723 ℓ	射撃距離 / Firing range	13,570~19,568m
行動距離 / Operating distance	121~177km	装甲貫通力 / Penetration performance	着弾角度が30度、射撃約1,400mでAPC弾なら約119mm、HVAP弾なら約176mm / APC - approx. 119mm, HVAP - approx. 176mm (30deg/1400m)
最大速度 / Maximum speed	48.3km/h		
■武装 / Armament	50口径90mm戦車砲 / 90mm gun M3, Cal.50 x 1		
主砲 / Primary			

■第二次大戦後の東西冷戦ともなっており、アメリカは現在まで続くロシアとの激しい戦車開発競争を繰り返すこととなります。朝鮮戦争ではM4A3E8 シャーマン・イージーエイトがT34/85に苦戦したもののM26パーシングと機動力を強化したM46パットンが90mm砲の攻撃力を活かしてT34/85を圧倒しました。一方のロシアはT34/85の後継車として、強力な100mm砲を搭載するT54/55を開発。10万輛以上が生産されたT54/55の低い車高と避弾経始に優れたデザインは西側諸国に大きな衝撃を与えました。このT54/55と同時期に登場したM48は当初、90mm砲を搭載していましたが、T54/55に対抗して最終型では105mm砲に換装。そして世界に先駆けて115mm滑腔砲を採用したT62と105mm砲装備のM60は中東戦争で砲火を交え、主砲の発射速度や居住性など多くの面でM60が優位に立ちました。1966年にはT62の走行性能を改善したT64が登場。さらに1971年に生産開始された125mm滑腔砲搭載のT72はイラクなど多くの国によって採用されました。そしてT72と1991年の湾岸戦争で対戦し、圧倒的な強さを見せたのが120mm滑腔砲とガスタービンエンジンを備えるM1A1エイブラムスです。この激しい戦車開発競争の中で、M26パーシングの優れた基本設計やデザインはM46やM48、そしてM60に脈々と受け継がれ、世界最強と言われるM1A1エイブラムスに至る現用アメリカ戦車の原点となったのです。



イラスト：上田 信

### 《朝鮮戦争のパーシング》

第二次大戦終了と同時に、アメリカを中心とする資本主義陣営とソビエトを中心とする共産主義陣営は世界各地で急速に対立を深めていきました。その最前線となったのが、38度線を挟んでソビエトや中国に後押しされる朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)とアメリカが支援する韓国に分断された朝鮮半島です。この朝鮮半島をめぐって1950年6月25日に勃発した朝鮮戦争でもパーシングは、アメリカを中心とする国連軍を支え続けたのです。

### 《パーシングの投入》

朝鮮戦争勃発当時、北朝鮮軍が大量のT34/85を配備していたのに対し、韓国軍の保有する戦闘車両はわずか数十輛のM8グレイハウンド軽装甲車だけで、在韓米軍部隊は開戦前の1948年に朝鮮半島から撤退していました。このため、北朝鮮軍は緒戦で韓国軍を圧倒し、6月28日には韓国の首都ソウルを占領。急遽投入されたアメリカ軍M24軽戦車もT34/85の敵ではなく、8月までにアメリカを中心とする国連軍と韓国軍は朝鮮半島南端の釜山周辺に追い詰められました。開戦から約2ヶ月間はT34/85が戦場を支配したのです。しかし、M4A3E8 シャーマン・イージーエイトやM46パットン、そしてパーシングなど国連軍の増援が続々と到着するにしたがって、北朝鮮軍の攻勢にも衰えが見え始めました。

朝鮮半島に到着したパーシングがT34/85と初めて砲火を交えたのは1950年8月17日のことでした。釜山橋頭堡のアメリカ第1海兵旅団の拠点に突入した北朝鮮軍T34/85の一群に対して同旅団所属のパーシングが応戦し、3輛のT34/85を撃破したのです。また米陸軍所属のパーシングも続いて戦闘を開始、第73戦車大隊の所属車が13輛のT34/85を含む北朝鮮軍の戦闘車輛多数を撃破しました。

1950年9月16日、国連軍はソウル近郊の仁川への上陸作戦を成功させてソウルを奪回。この上陸作戦でも海兵隊所属のパーシングが多数のT34/85を撃破し、作戦成功に大きく貢献しました。戦局を逆転させた国連軍は北朝鮮の首都ピョンヤンも占領し、撤退する北朝鮮軍を追ってさらに北上。しかし10月25日に突如として中国軍が参戦すると戦況は再び一変しました。大兵力の中国軍によって韓国軍と国連軍部隊は各地で敗退し、1951年1月には北朝鮮・中国軍がソウルを再び占領。この苦しい撤退作戦の中でもパーシングは火力支援に奮闘しています。体勢を立て直した国連軍が攻勢に転じ、3月にソウルを再奪還した後は1953年7月の休戦協定調印まで38度線を挟んで膠着状態が続きました。このため朝鮮戦争後半は戦車による機動戦は少なく、パーシングの多くもダックインしての火力支援を主な任務としたのです。

朝鮮戦争に派遣されたアメリカ軍部隊の中でパーシングを装備していたのは、第64、第70、第72、第73、第89の各戦車大隊、そ

して海兵隊第1戦車大隊などでした。アメリカ軍戦車は朝鮮戦争中に約100輛のT34/85を撃破しましたが、そのうち約半数がパーシングとM46パットンによる戦果です。またパーシングは通常、射程距離300mから1000mの間でT34/85を撃破していますが、第89戦車大隊所属車による約20mという接近戦や約2700mという遠距離射撃による撃破も記録、パーシングは朝鮮戦争を通してT34/85を圧倒する強さを見せたのです。

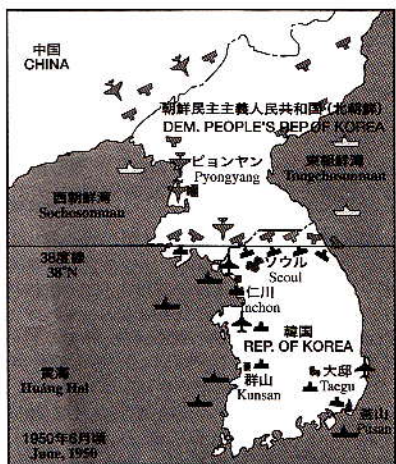
### 《朝鮮戦争当時のアメリカ兵と北朝鮮兵》

#### U.S. and North Korean soldiers in Korean War

アメリカ兵歩兵 U.S. infantryman    アメリカ戦車兵 U.S. tank crew    北朝鮮軍歩兵 North Korean infantryman    北朝鮮軍下士官 North Korean officer



●アメリカ兵は第二次大戦時と同じHBT(ヘリンボーン)ジャケットやM1950野戦服が一般的で、様々な防寒服も導入されました。北朝鮮軍ではロシア式のルバシカ型野戦服やキルト防寒着(チュラグレイカ)が広く着用されています。



1950年6月に勃発した朝鮮戦争。緒戦で釜山付近に追い詰められた国連軍は、仁川上陸作戦の成功により一転して北朝鮮軍を退けて北上。その後中国軍の参戦を経て38度線を挟む一進一退の激戦が終息したのは1953年7月のことでした。

During the final stages of World War II, the long awaited successor of the U.S. M4 Sherman Tank finally appeared. This tank, which promised to hold up against the wrath of the German King Tiger and Panther tanks, was the M26 Pershing Medium Tank. The M26 Pershing was deployed to the European front in February of 1945 as part of the effort to invade the German homeland and engaged Tiger I and Pz.kpfw.IV tanks during the fight to cross Hohenzollern Bridge over the Rhine. The M26 Pershing showed particularly critical influence during the offensive on the Ludendorff Bridge in Remagen. In this operation, five supporting M26 Pershing Tanks rained shells onto the opposite side of the river bank, paving the way for ground troops who moved in to seize the bridge. 200 M26 Pershing tanks were used against Germany until its surrender. M26 Pershing tanks were also deployed to the front of the war in the Pacific. M26 Pershing Tanks were immediately deployed after the outbreak of the Korean War in June 1950. Until July 1953, the M26 fought successfully alongside the M4A3E8 Easy Eight and the M46 Patton with the main forces of United Nations against the rival T34/85 Soviet built tanks of the North Korean and Chinese volunteer armies. While the M26 Pershing's average hit range on T34/85 tanks was between 300m and 1000m, hit ranges as close as 20m and as far away as 2700m were also recorded. But no matter the range, it was apparent

that the M26 Pershing dominated the T34/85 tanks. The M26 Pershing was well balanced for defense with its 127mm thick armor and for assault with the sheer firepower of its M3 90mm gun. Equipped with a Ford GAF liquid cooled gasoline engine and torsion bar suspension, this tank exhibited incredible mobility.

#### The History of U.S. Tank Development

The cold war between United States and Soviet spurred the harsh competition of new tank development. In the Korean War, M26 Pershing and M46 Patton overwhelmed T34/85 tanks with their 90mm guns and superior mobility. Soviet embarked on the development of the T54/55 tank with a 100mm gun for successor of the T34/85. At the same period, the U.S. converted the M48's 90mm gun to a 105mm for the final version. The battle result between the T62 tank with its 115mm smoothbore gun and the M60 with its 105mm gun in the Middle East Wars proved the M60's superiority. In the Gulf War, the Iraqi T72 equipped with its 125mm smoothbore gun was not a match for M1A1 Abrams tank with its 120mm smoothbore gun and gas turbine engine. The M26 served as a model for the designs of the M46, M48, and M60 tanks. It can even be said that the engineering of the M26 served as a foundation for current U.S. tank designs, such as that of the supreme M1 Abrams Tank.

In der Endphase des Zweiten Weltkriegs erschien endlich der lange erwartete Nachfolger des U.S. M4 Sherman Panzers. Dieser Panzer, von dem man sich versprach, er könne den wütenden Attacken der Deutschen Königstiger und Panther Panzer etwas entgegensetzen, war der Mittlere Panzer M26 Pershing. Der M26 Pershing wurde im Februar 1945 an die Europäische Front ausgeliefert, wo er seinen Teil zu den Bemühungen beitragen sollte, das Deutsche Kernland zu besetzen und traf so beim Kampf um die Überquerung der Hohenzollernbrücke über den Rhein auf Tiger I und Pz.kpfw.IV. Außerdem bewies der M26 Pershing mitentscheidende Wirkung beim Angriff auf die Ludendorff-Brücke bei Remagen. Während dieser Operation ließen fünf zur Unterstützung eingesetzte M26 Pershing Panzer Granaten auf das gegenüberliegende Flußufer herabregnen, womit sie für die Bodentruppen den Weg zur Einnahme der Brücke vorbereiteten. 200 M26 Pershing Panzer wurde gegen Deutschland bis zu dessen Kapitulation eingesetzt. Die M26 Pershing wurden auch an die Front im Pazifik ausgeliefert. Ebenso wurden unmittelbar nach Ausbruch des Korea-Kriegs im Juni 1950 M26 Pershing Panzer dorthin abgestellt. Bis Juli 1953 kämpfte der M26 erfolgreich Seite an Seite mit M4A3E8 Easy Eight und dem M46 Patton mit den Bodentruppen der verbündeten Nationen gegen die feindlichen T34/85 Panzer Sowjetischer Bauart der Nordkoreanischen und der Freiwillige Chinesischen Truppen. Während normalerweise die Schussentfernung erfolgreicher Treffer an T34/85 Panzern zwischen 300m und 1000m lag, wurden auch Treffer aus nur 20m als auch bis zu 2700m Entfernung registriert. Auch wenn die Reichweite keine Rolle spielte,

war es offensichtlich, dass der M26 Pershing den T34/85 Panzern überlegen war. Der M26 Pershing war sehr gut ausgewogen für die Verteidigung mit seiner 127mm starken Panzerung und für den Angriff mit der blanken Feuerkraft seiner M3 90mm Kanone. Ausgestattet mit einem wassergekühlten Ford GAF Benzinmotor und Torsionsstab-Aufhängung, legte diese Panzer eine unglaubliche Beweglichkeit an den Tag.

#### Die Geschichte der U.S. Panzerentwicklung

Der Kalte Krieg zwischen den Vereinigten Staaten und der Sowjetunion trieb den brutalen Wettbewerb um die Entwicklung neuer Panzer an. Im Korea-Krieg bezwangen der M26 Pershing und der M46 Patton die T34/85 Panzer mit ihren 90mm Kanonen und überlegener Beweglichkeit. Die Sowjets hatten sich auf die Entwicklung des T54/55 Panzers mit einer 100mm Kanone als Nachfolger für den T34/85 festgelegt. Zur gleichen Zeit änderten die U.S. die 90mm Kanone des M48 auf 105mm für die letzte Version. Das Gefechtsergebnis zwischen dem M62 Panzer mit seiner 115mm Glattrohrkanone und dem M60 mit seiner 105mm Kanone im Mittelostkrieg bewies die Überlegenheit des M60. Im Golfkrieg war der T72 der Irakis, ausgerüstet mit seiner 125mm Glattrohrkanone und Antrieb über Gasturbine nicht gewachsen. Der M26 diente als Vorbild für die Entwicklung des M46, M48 und M60 Panzers, man kann sogar sagen, dass das Baukonzept des M26 als Grundlage für die gegenwärtigen U.S. Panzerkonstruktionen diente, wie etwa für den überragenden M1 Abrams Panzer.

Tout à la fin de la 2<sup>ème</sup> G.M., le successeur tant attendu du char US M4 Sherman arriva enfin. Ce char moyen qui allait enfin permettre aux américains de se mesurer à armes égales avec les Panther et Tiger allemands était le M26 Pershing. Des M26 furent déployés sur le front européen en février 1945 au début de l'invasion du territoire allemand et engagèrent des Tiger I et Pz.Kpfw. IV durant les combats pour la conquête du pont Hohenzollern sur le Rhin. C'est durant la Bataille pour le Pont Ludendorff à Remagen que le M26 Pershing eut une influence sur le cours des combats. Lors de cette opération, cinq chars M26 Pershing appuyèrent l'opération, pilonnant la rive opposée et préparant le chemin des forces d'assaut. La capture de cet ouvrage d'art accéléra la victoire alliée. Près de 200 M26 Pershing furent utilisés contre les allemands jusqu'à leur défaite. Les M26 furent également engagés dans le Pacifique et furent immédiatement déployés en Corée tout de suite après le début des hostilités en juin 1950. Jusque juillet 1953, ils combattirent aux côtés des M4A3E8 "Easy Eight" et des M46 Patton avec les forces des Nations-Unies contre les T34/85 d'origine soviétique des nord-coréens et des volontaires chinois. Les coups au but des Pershing sur des T34/85 étaient tirés en moyenne entre 300 et 1000 mètres de distance mais on enregistra également des coups à 20 mètres et jusqu'à 2700 mètres. Mais quelle que soit la distance les séparant, le M26 dominait le T34/85. Le M26 était bien protégé avec son blindage de 127 mm et bien armé avec son puissant canon M3 de 90 mm. Equipé d'un moteur à essence Ford GAF refroidi par liquide et d'une suspension à barres de torsion, ce char était d'une incroyable maniabilité.

#### Historique du Développement des Chars US

La Guerre Froide entre les Etats-Unis et les soviétiques entraîna le dévelop-

pement rapide de nouveaux chars de combat dans les deux camps. Durant la Guerre de Corée, les M26 Pershing et M46 Patton avaient dominé les T34/85 grâce à leurs canons de 90 mm et leur grande mobilité. Les soviétiques lancèrent alors le développement du T54/55 doté d'un canon de 100 mm pour succéder au T34/85. A la même époque, les américains firent passer le canon du M48 de 90 à 105 mm pour la version définitive. Les combats entre les T62 avec canon lisse de 115 mm et les M60 à canon de 105 mm durant les guerres du Proche-Orient montrèrent la supériorité du M60. Durant la Guerre du Golfe, les T72 irakiens dotés d'un canon de lisse de 125 mm ne pouvaient se mesurer au M1A1 Abrams propulsé par turbine à gaz et doté d'un canon lisse de 120mm. Le M26 Pershing servit de base pour la conception des tanks M46, M48 et M60. On peut même dire que le M26 a établi les fondations du développement des chars américains actuels dont le remarquable M1 Abrams.

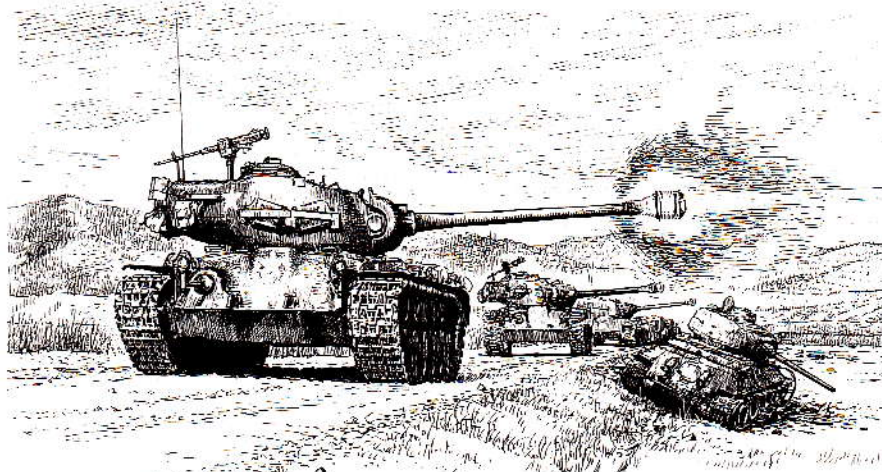


Illustration by Shin Ueda



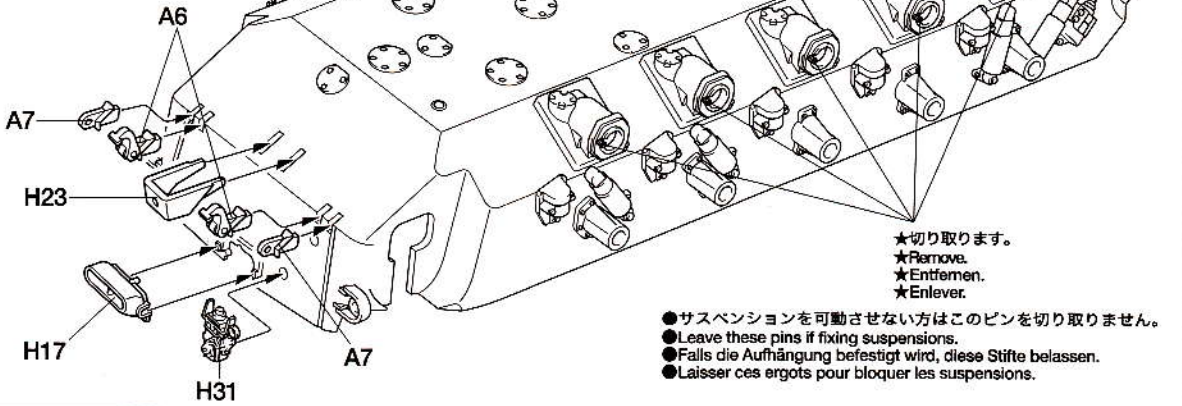
**2**

車体下部の加工とリヤパネル部品の取り付け

Modifying lower hull / Attaching rear panel parts 1  
 Abänderung der Wannen-Unterteil / Anbringung der Teile an der Heckplatte 1  
 Modification de la caisse inférieure / Fixation des accessoires du panneau arrière 1

★切り取ります。  
 ★Remove.  
 ★Entfernen.  
 ★Enlever.

★切り取ります。  
 ★Remove.  
 ★Entfernen.  
 ★Enlever.



●サスペンションを可動させない方はこのピンを切り取りません。  
 ●Leave these pins if fixing suspensions.  
 ●Falls die Aufhängung befestigt wird, diese Stifte belassen.  
 ●Laisser ces ergots pour bloquer les suspensions.

**3**

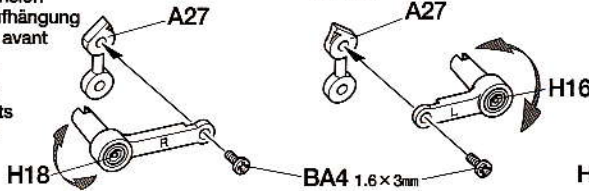
ファイナルギヤケースの組み立て

Final gear case  
 Gehäuse Endgetriebe  
 Carter de transmission finale

《Fサスペンション》

Front suspension  
 Vorderradaufhängung  
 Suspension avant

《右》  
 Right  
 Rechts  
 Droit



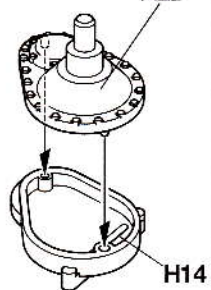
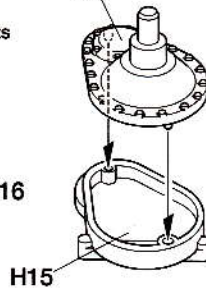
《左》  
 Left  
 Links  
 Gauche

《右》  
 Right  
 Rechts  
 Droit

A22

《左》  
 Left  
 Links  
 Gauche

A22

**4**

サスペンションの取り付け

Attaching suspensions  
 Radaufhängung-Einbau  
 Fixation des suspensions

Fサスペンション右  
 Front suspension (right)  
 Vorderradaufhängung (rechts)  
 Suspension avant (droit)

Fサスペンション左  
 Front suspension (left)  
 Vorderradaufhängung (links)  
 Suspension avant (gauche)

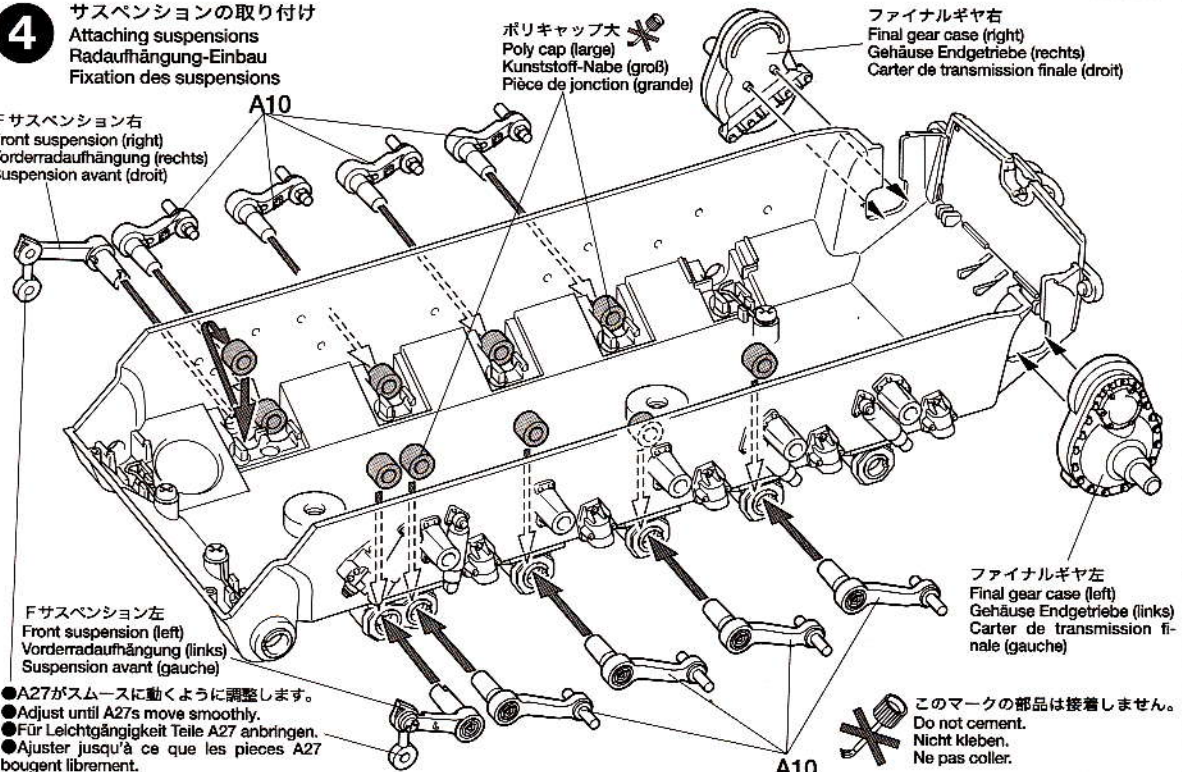
ポリキャップ大  
 Poly cap (large)  
 Kunststoff-Nabe (groß)  
 Pièce de jonction (grande)

ファイナルギヤ右  
 Final gear case (right)  
 Gehäuse Endgetriebe (rechts)  
 Carter de transmission finale (droit)

ファイナルギヤ左  
 Final gear case (left)  
 Gehäuse Endgetriebe (links)  
 Carter de transmission finale (gauche)

●A27がスムーズに動くように調整します。  
 ●Adjust until A27s move smoothly.  
 ●Für Leichtgängigkeit Teile A27 anbringen.  
 ●Ajuster jusqu'à ce que les pièces A27 bougent librement.

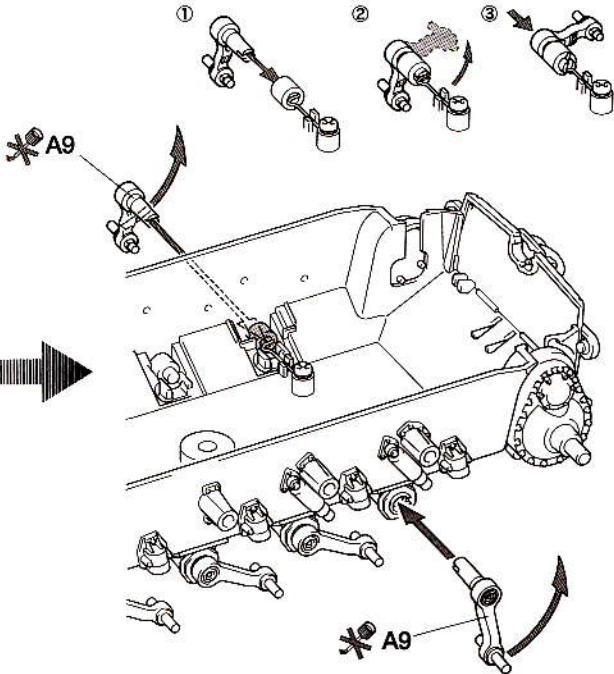
このマークの部品は接着しません。  
 Do not cement.  
 Nicht kleben.  
 Ne pas coller.



5

リヤサスペンションアームの取り付け  
Attaching rear suspension arms  
Anbringung des hinteren Aufhängungsarms  
Fixation des bras de suspension arrière

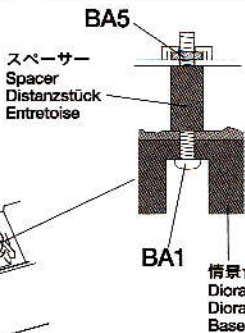
ポリキャップ大  
Poly cap (large)  
Kunststoff-Nabe (groß)  
Pièce de jonction (grande)



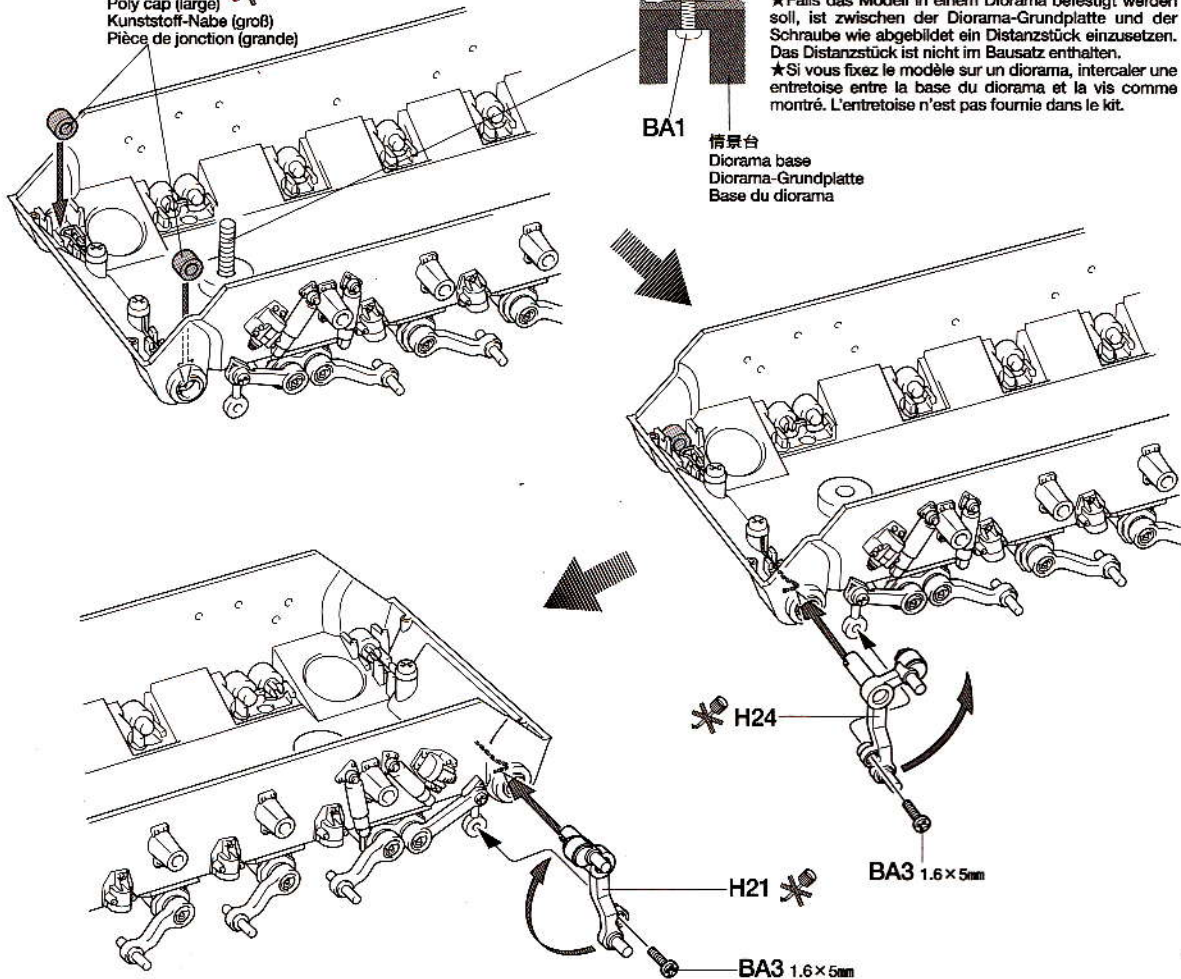
6

フロントサスペンションアームの取り付け  
Attaching front suspension arms  
Anbringung des vorderen Aufhängungsarms  
Fixation des bras de suspension avant

ポリキャップ大  
Poly cap (large)  
Kunststoff-Nabe (groß)  
Pièce de jonction (grande)



★車体固定用ビスを図のように情景台下からねじ込んで車体と情景台の間にスペーサーをはさみ、図のように固定します。スペーサーはキットには付属しません。  
★If you fix the model to diorama, insert spacer to between diorama base and the screw as shown. Spacer is not included in kit.  
★Falls das Modell in einem Diorama befestigt werden soll, ist zwischen der Diorama-Grundplatte und der Schraube wie abgebildet ein Distanzstück einzusetzen. Das Distanzstück ist nicht im Bausatz enthalten.  
★Si vous fixez le modèle sur un diorama, intercaler une entretoise entre la base du diorama et la vis comme montré. L'entretoise n'est pas fournie dans le kit.



### 7 転輪の組み立て

Wheel assembly  
Rad-Zusammenbau  
Assemblage des roues

《サポートローラー》  
Support roller  
Stützrolle  
Galet porteur

《ロードホイール》  
Road wheel  
Laufrad  
Roue de route

《ドライブスプロケット》  
Drive sprocket  
Antriebs-Kettenrad  
Barbotin

★10個作ります。  
★Make 10.  
★10 Satz anfertigen.  
★Faire 10 jeux.

★14個作ります。  
★Make 14.  
★14 Satz anfertigen.  
★Faire 14 jeux.

★2個作ります。  
★Make 2.  
★2 Satz anfertigen.  
★Faire 2 jeux.

ポリキャップ小  
Poly cap (small)  
Kunststoff-Nabe (klein)  
Pièce de jonction (petite)

ポリキャップ大  
Poly cap (large)  
Kunststoff-Nabe (groß)  
Pièce de jonction (grande)

### 8 転輪の取り付け

Attaching wheels  
Einbau der Räder  
Fixation des roues

★各ホイールは右側も同様に取り付けます。  
★Attach wheels to both sides.  
★Räder auf beiden Seiten einbauen.  
★Attacher les roues de chaque côté.

ロードホイール  
Road wheel  
Laufrad  
Roue de route

サポートローラー  
Support roller  
Stützrolle  
Galet porteur

ドライブスプロケット  
Drive sprocket  
Antriebs-Kettenrad  
Barbotin

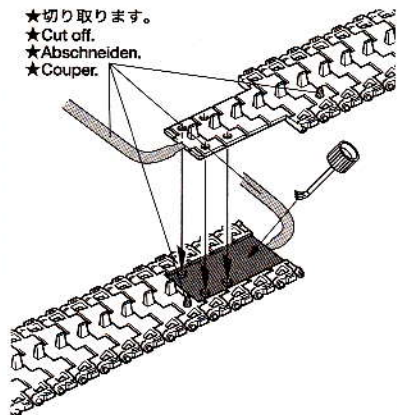
ロードホイール  
Road wheel  
Laufrad  
Roue de route

サポートローラー  
Support roller  
Stützrolle  
Galet porteur

### 《キャタピラの作り方》

Track construction  
Ketten-Zusammenbau  
Assemblage des chenilles

- ★切り取ります。
- ★Cut off.
- ★Abschneiden.
- ★Couper.



- このキャタピラは接着式です。
- ①キャタピラの端にあるランナー(枠の部分)は不要なので切り取ります。
- ②図の影の部分に接着剤をつけます。
- ③接着剤が他の部分につかないように注意しながら、キャタピラの端を図のようにはめ込みます。この時キャタピラの接合部は、はがれやすいのでしっかり接着してください。
- キャタピラの接着剤がかくまで車体下部に取り付けられないでください。またキャタピラが切れてしまった時は黒糸やホッチキスなどで補強してください。
- このキャタピラは塗装ができます。

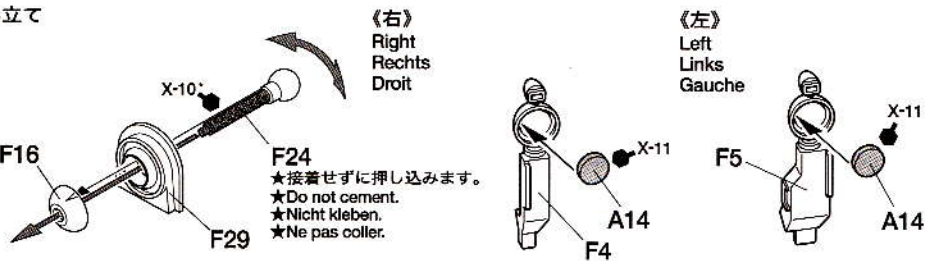
- The tracks in this kit can be glued using plastic cement.
- ①Remove any excess plastic from surface to be cemented.
- ②Apply cement. Be careful not to apply too thick.
- ③Join track ends together and allow to set.
- Attach track to hull after cement has completely cured. If track breaks, join with staples or thread.
- The tracks can be painted using plastic paints.

- Die Ketten dieses Bausatzes mit Plastik-Kleber zusammenkleben.
- ①Plastik-Grate entfernen, damit sauber verklebt werden kann.
- ②Flüssigkleber bzw. Plastik-Kleber nicht zu dick auftragen.
- ③Ketten-Enden zusammenpressen.
- Wenn der Kleber ausgetrocknet ist, Ketten auf Wanne aufziehen. Falls Kette reißt, mit Draht oder Faden zusammenhalten.
- Die Ketten-Teile können mit jeder Plastikfarbe bemalt werden.

- Les chenilles de ce kit peuvent s'assembler à l'aide de colle pour maquettes plastique standard.
- ①Enlever tout excès de matière de la surface à coller.
- ②Appliquer la colle (une fine couche suffit).
- ③Mettre en contact les deux extrémités et laisser sécher.
- Après séchage installer les chenilles sur les trains de roulement. Si une chenille casse, on peut la réparer à l'aide d'une agrafe ou de fil.
- La peinture des chenilles peut se réaliser à la peinture acrylique.

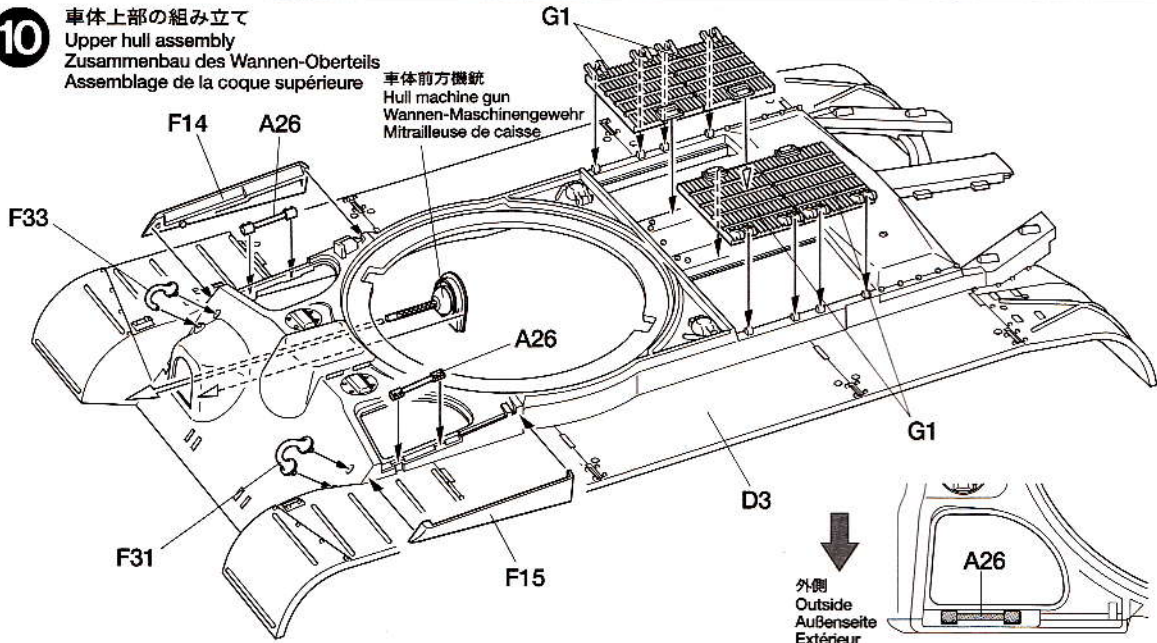
**9** ヘッドライトの組み立て  
Headlight  
Scheinwerfer  
Phare

《車体前方機銃》  
Hull machine gun  
Wannen-Maschinengewehr  
Mitrailleuse de caisse

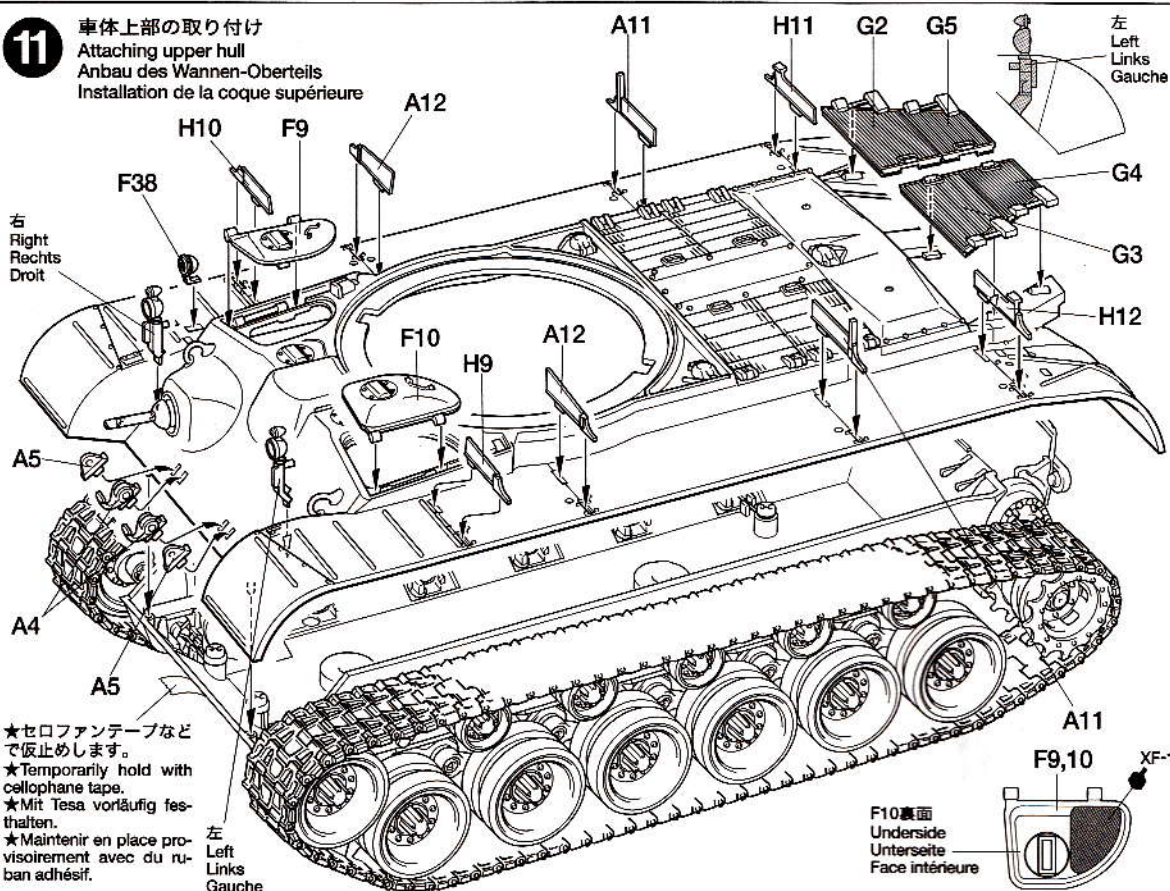


**10** 車体上部の組み立て  
Upper hull assembly  
Zusammenbau des Wannen-Oberteils  
Assemblage de la coque supérieure

車体前方機銃  
Hull machine gun  
Wannen-Maschinengewehr  
Mitrailleuse de caisse



**11** 車体上部の取り付け  
Attaching upper hull  
Anbau des Wannen-Oberteils  
Installation de la coque supérieure



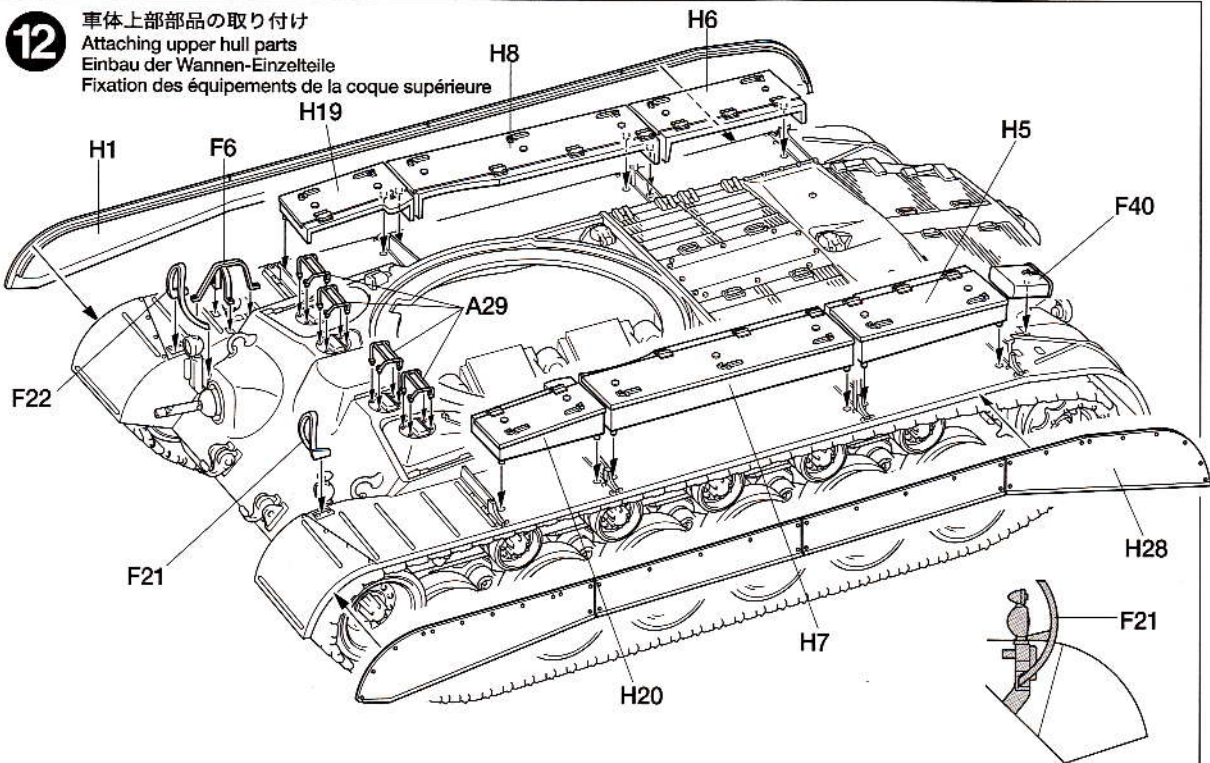


《サスペンションの作動》  
 Checking suspension movement  
 Überprüfen der Beweglichkeit  
 der Aufhängung  
 Vérification des mouvements  
 de la suspension



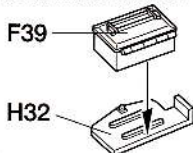
★図のように障害物をおくとサスペンションが可動するのがわかります。情景などではお手持ちの資料を参考に、よりリアルに仕上げてみましょう。  
 ★Put the lower hull onto an object to check suspension movement. You can make use of this feature to build up more realistic diorama!  
 ★Die Wannen-Unterteil zur Überprüfung der Beweglichkeit der Aufhängung auf einen Gegenstand drücken. Diese Besonderheit kann zur Anfertigung eines noch realistischeren Dioramas genutzt werden!  
 ★Poser la caisse inférieure sur un objet pour vérifier les mouvements de la suspension. Avec cette fonctionnalité, vous obtiendrez des dioramas encore plus réalistes!

12 車体上部部品の取り付け  
 Attaching upper hull parts  
 Einbau der Wannen-Einzelteile  
 Fixation des équipements de la coque supérieure

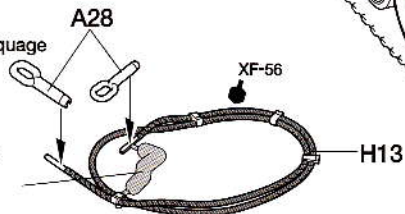


13 車体後部部品の取り付け  
 Attaching rear panel parts 2  
 Anbringung der Teile an der Heckplatte 2  
 Fixation des accessoires du panneau arrière 2

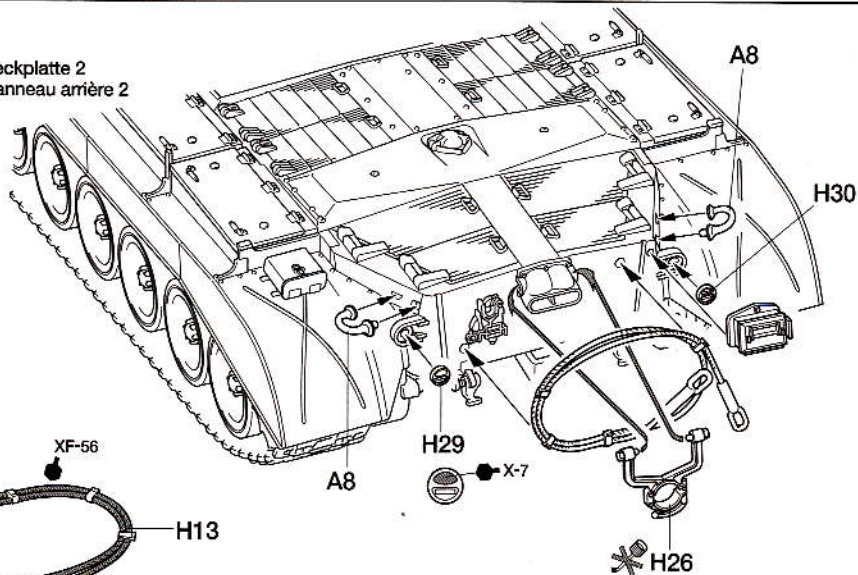
《インターホン》  
 Interphone  
 Sprechrichtung  
 Système de communication



《牽引ワイヤー》  
 Towing cable  
 Schleppkabel  
 Câble de remorquage



★切り取ります。  
 ★Remove.  
 ★Entfernen.  
 ★Enlever.

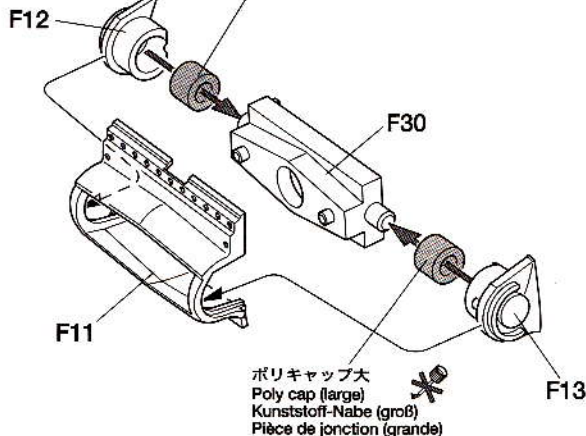


**14** 砲塔の組み立て  
Turret assembly  
Turm-Zusammenbau  
Assemblage de la tourelle

《砲身基部》

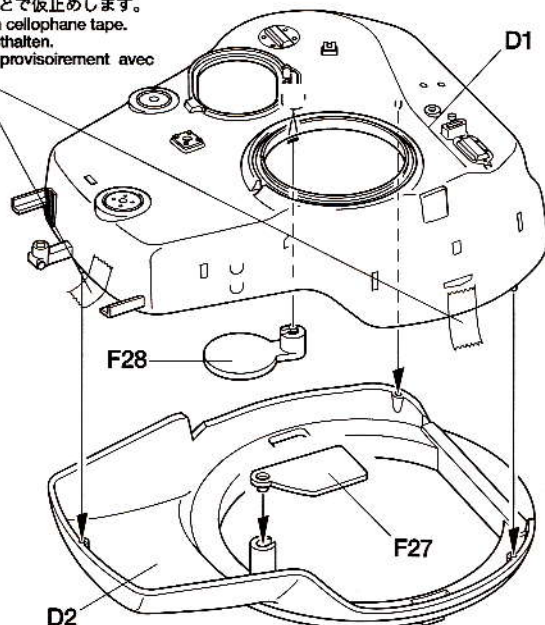
Gun mount  
Kanonenhalterung  
Affût de canon

ポリキャップ大  
Poly cap (large)  
Kunststoff-Nabe (groß)  
Pièce de jonction (grande)

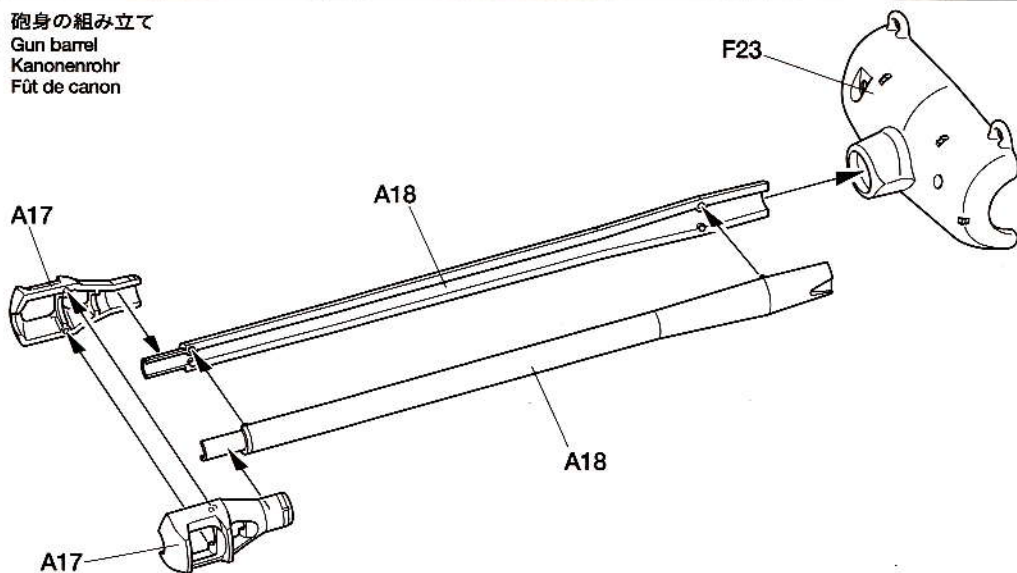


ポリキャップ大  
Poly cap (large)  
Kunststoff-Nabe (groß)  
Pièce de jonction (grande)

★セロファンテープなどで仮止めします。  
★Temporarily hold with cellophane tape.  
★Mit Tesa vorläufig festhalten.  
★Maintenir en place provisoirement avec du ruban adhésif.



**15** 砲身の組み立て  
Gun barrel  
Kanonenrohr  
Fût de canon

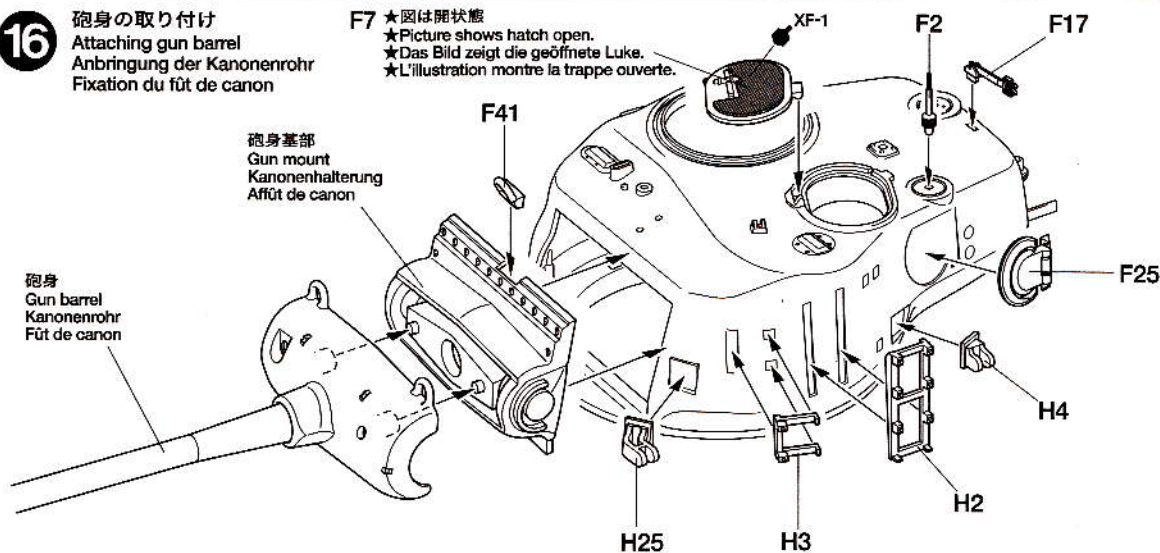


**16** 砲身の取り付け  
Attaching gun barrel  
Anbringung der Kanonenrohr  
Fixation du fût de canon

砲身基部  
Gun mount  
Kanonenhalterung  
Affût de canon

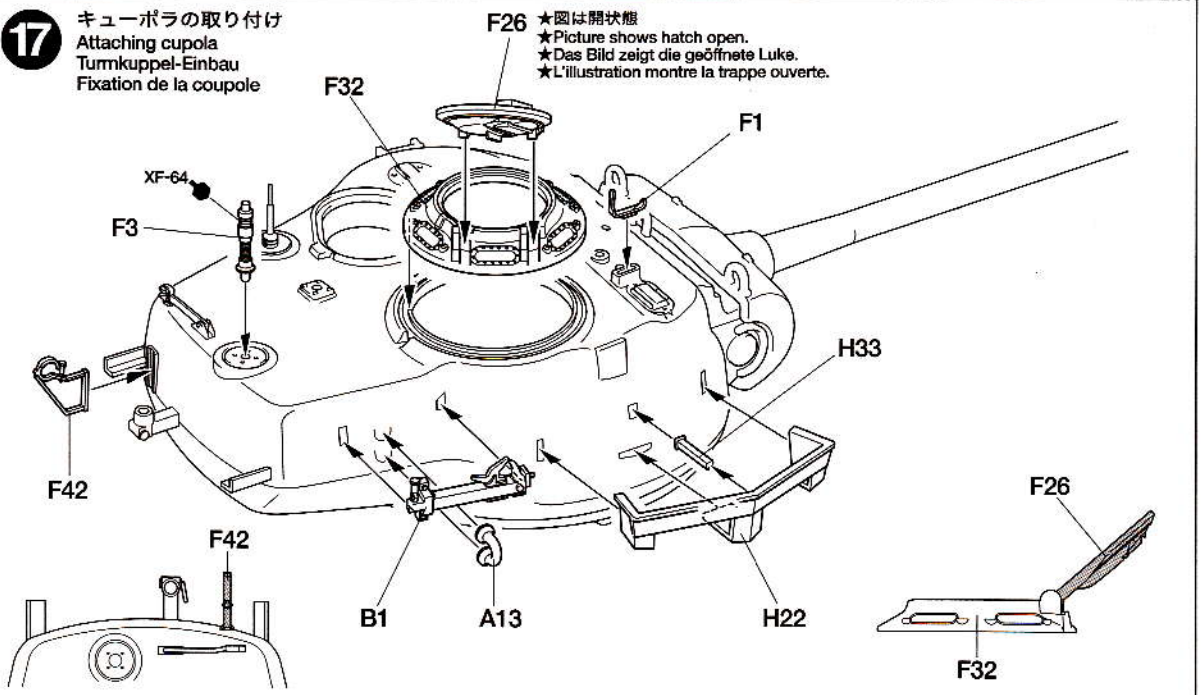
砲身  
Gun barrel  
Kanonenrohr  
Fût de canon

F7 ★図は開状態  
★Picture shows hatch open.  
★Das Bild zeigt die geöffnete Luke.  
★L'illustration montre la trappe ouverte.



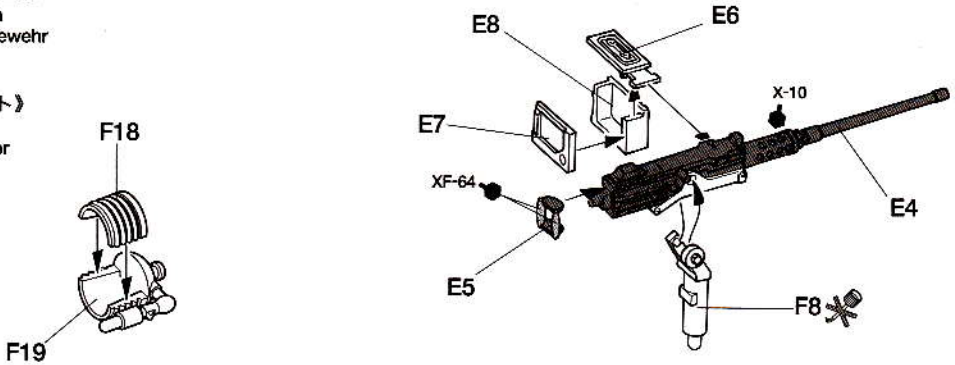
**17**

キューポラの取り付け  
Attaching cupola  
Turmkuppel-Einbau  
Fixation de la coupole

**18**

機銃の組み立て  
Machine gun  
Maschinengewehr  
Mitrailleuse

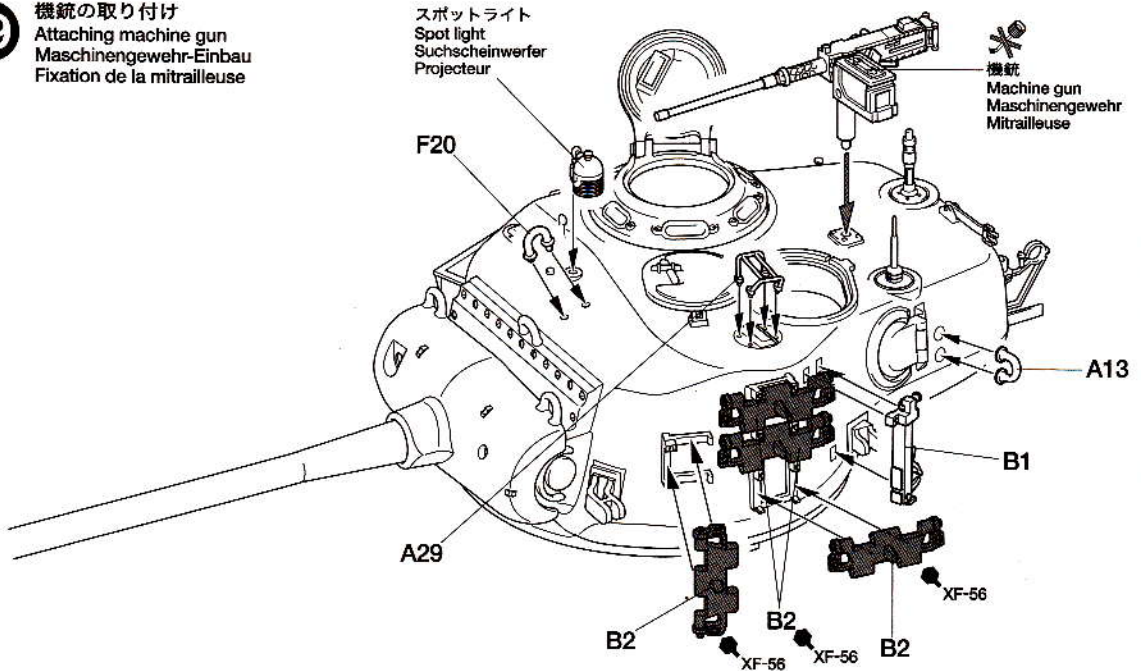
《スポットライト》  
Spot light  
Suchscheinwerfer  
Projecteur

**19**

機銃の取り付け  
Attaching machine gun  
Maschinengewehr-Einbau  
Fixation de la mitrailleuse

スポットライト  
Spot light  
Suchscheinwerfer  
Projecteur

機銃  
Machine gun  
Maschinengewehr  
Mitrailleuse

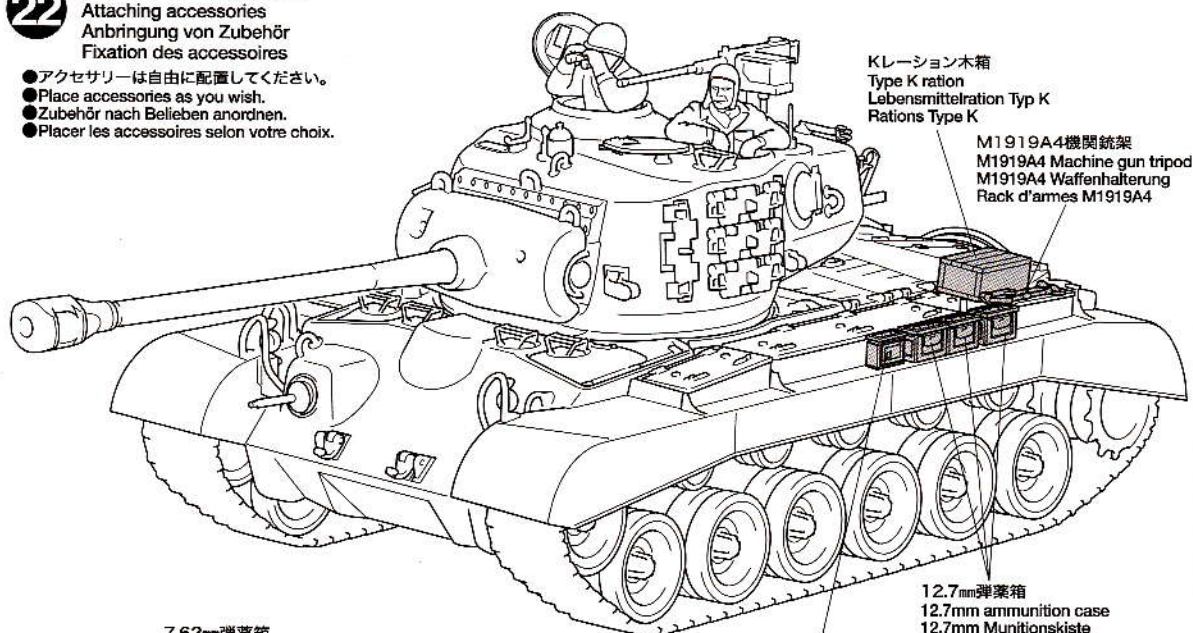




## アクセサリーの取り付け

Attaching accessories  
Anbringung von Zubehör  
Fixation des accessoires

- アクセサリーは自由に配置してください。
- Place accessories as you wish.
- Zubehör nach Belieben anordnen.
- Placer les accessoires selon votre choix.



Kレーション木箱  
Type K ration  
Lebensmittelration Typ K  
Rations Type K

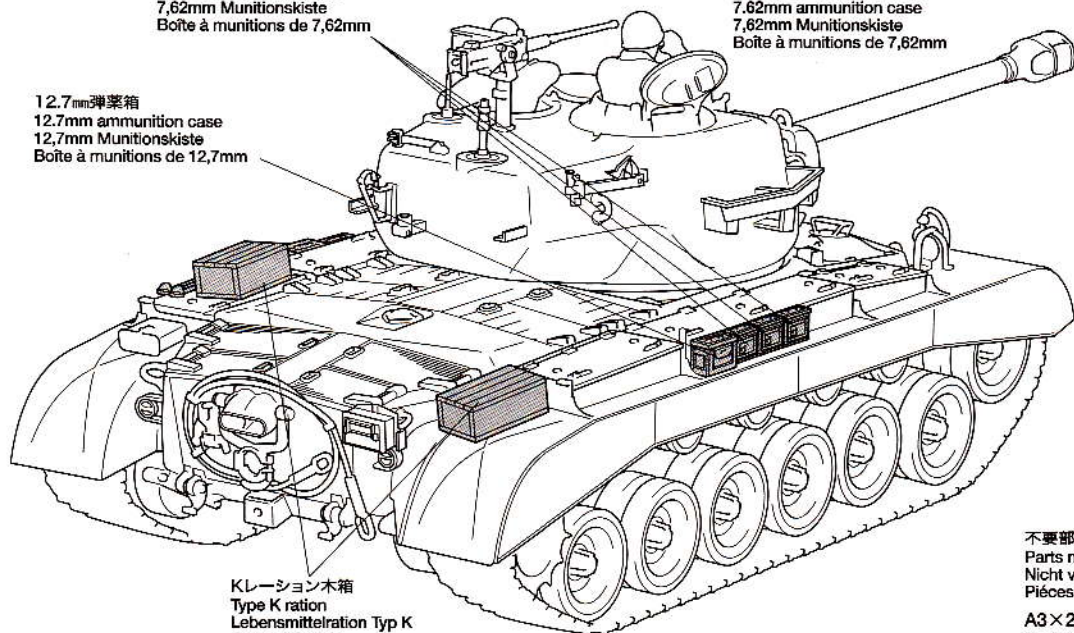
M1919A4機関銃架  
M1919A4 Machine gun tripod  
M1919A4 Waffenhalterung  
Rack d'armes M1919A4

7.62mm弾薬箱  
7.62mm ammunition case  
7.62mm Munitionskiste  
Boîte à munitions de 7,62mm

12.7mm弾薬箱  
12.7mm ammunition case  
12,7mm Munitionskiste  
Boîte à munitions de 12,7mm

7.62mm弾薬箱  
7.62mm ammunition case  
7.62mm Munitionskiste  
Boîte à munitions de 7,62mm

12.7mm弾薬箱  
12.7mm ammunition case  
12,7mm Munitionskiste  
Boîte à munitions de 12,7mm



Kレーション木箱  
Type K ration  
Lebensmittelration Typ K  
Rations Type K

不要部品  
Parts not used.  
Nicht verwenden.  
Pièces non utilisées.

A3×2, A29×1,  
E1, E2, E3

## PAINTING

### 《M26 パーシングの塗装》

第二次大戦末期から朝鮮戦争にかけて実戦配備されたM26 パーシングは、全面オリーブドラブ単色で塗装されていました。このオリーブドラブは年代や工場など生産ロットによって様々な色調が見られます。基本的には茶系の強いオリーブドラブが使用されましたが、第二次大戦末期からは緑系の強いオリーブドラブも導入されました。タミヤカラーではそれぞれTS-5 オリーブドラブとTS-28 オリーブドラブ2が近いと言えるでしょう。(説明書中はTS-5 オリーブドラブで指示してあります。)

また朝鮮戦争に出動したアメリカ海兵隊所属のパーシングも陸軍同様にオリーブドラブの単色塗装が施されていました。細部の塗装は組立図中に●マークとタミヤカラーの色番号で指示してあります。

### Painting the U.S. Medium Tank M26 Pershing

From the final stages of WWII throughout the Korean War, the Pershing was painted over in one shade of olive drab. Originally this olive drab was on the brown side, but from the end of WWII the olive drab shade shifted towards the green side. Tamiya Color TS-5 Olive Drab and TS-28 Olive Drab 2 are good for depicting these shades. Please also note that M26 Pershing tanks deployed under the U.S. Marines during the Korean War were painted in the same shade of olive drab as those affiliated with the U.S. Army. Detailed marking is called out during construction and should be done at that time.

### Lackieren des U.S. Mittleren Panzers M26 Pershing

Von der Endphase des Zweiten Weltkriegs bis zum Ende des Koreakriegs war der Pershing in einer Schattierung eines Olivtons lackiert. Ursprünglich lag dieser Olivton eher auf der braunen Seite, aber nach dem Ende des Zweiten Weltkriegs wechselte diese mehr zur

grünen Seite. Die Tamiya-Farben TS-5 Olivton und TS-28 Olivton 2 sind gut zur Herausarbeitung dieser Schattierung geeignet. Es gilt auch zu vermerken, dass die M26 Pershing Panzer, welche während des Korea-Kriegs an die U.S. Marines im selben Olivton lackiert waren, wie die der U.S. Army zugeordneten. Die Markierung feiner Details ist beim Zusammenbau beschrieben und sollte dort vorgenommen werden.

### Peinture du Char Moyen US M26 Pershing

Dans les derniers mois de la 2<sup>ème</sup> G.M. et durant toute la Guerre de Corée, les Pershing étaient entièrement peints en Olive Drab. A l'origine, cet Olive Drab tirait sur le brun mais à partir de la fin de la 2<sup>ème</sup> G.M., il devint verdâtre. Les peintures Tamiya TS-5 Olive Drab et TS-28 Olive Drab 2 conviennent parfaitement pour les reproduire. Notez également que les M26 Pershing utilisés par les US Marines durant la Guerre de Corée étaient peints dans le même ton d'Olive Drab que ceux de l'US Army. La peinture des détails doit s'effectuer durant l'assemblage du modèle.

# APPLYING DECALS

《スライドマークのはりかた》

- ①はりたいマークをハサミで切りぬきます。
- ②マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上におきます。
- ③台紙のはしを手で持ち、貼るところにマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤やわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして水分をとります。

## DECAL APPLICATION

1. Cut off decal from sheet.

2. Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
3. Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
4. Move decal into position by wetting decal with finger.
5. Press decal gently down with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

## ANBRINGUNG DES ABZIEHBILDES

1. Abziehbild vom Blatt ausschneiden.
2. Das Abziehbild ungefähr 10 Sek. in lauwarmes Wasser tauchen, dann auf sauberen Stoff legen.
3. Die Kante der Unterlage halten und das Abziehbild auf das Modell schieben.
4. Das Abziehbild an die richtige Stelle schieben und dabei mit dem Finger das Abziehbild naßmachen.

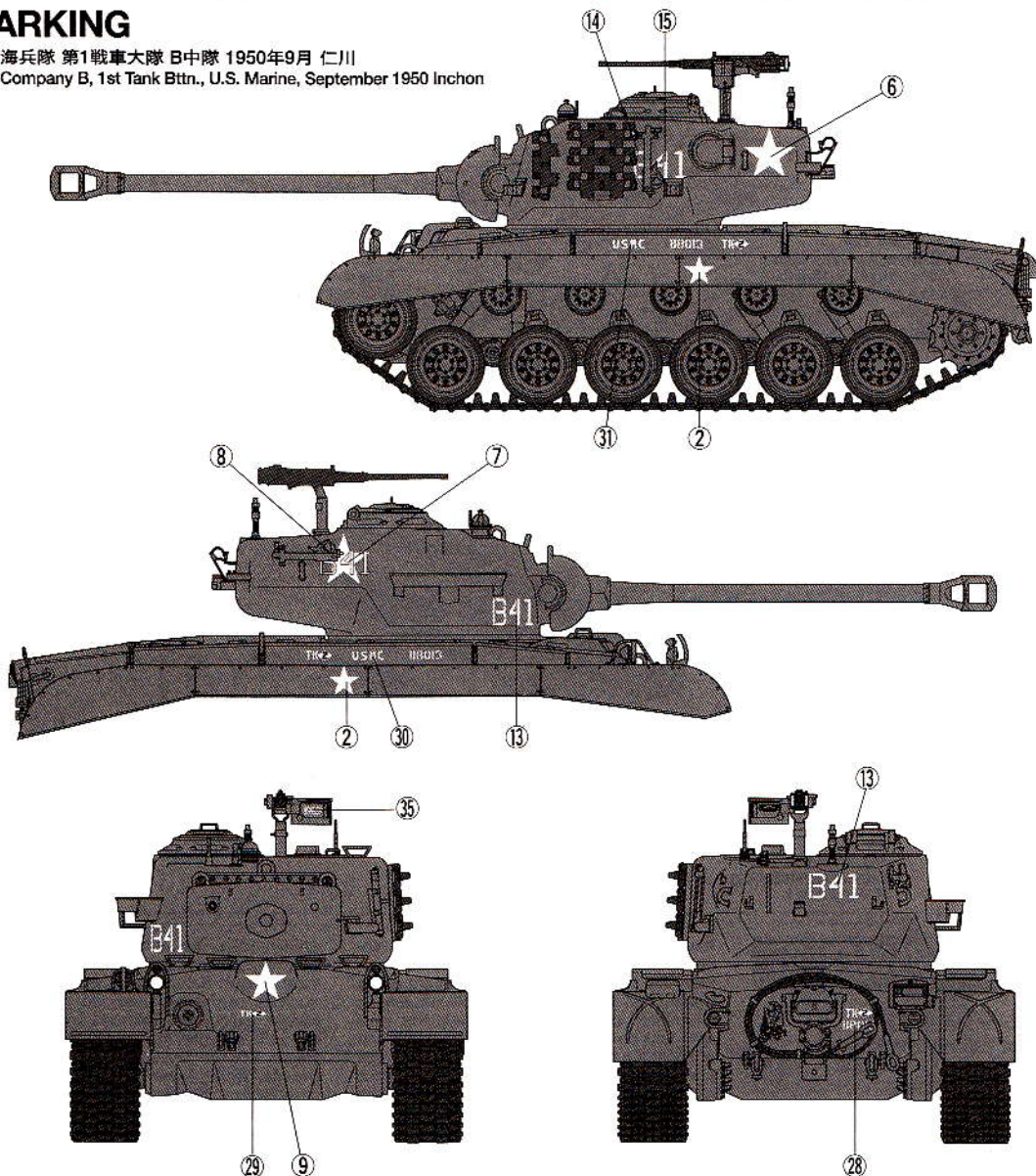
5. Das abziehbild mit weichem Stoff ganz andrücken, bis kein überflüssiges Wasser und keine Luftblasen mehr vorhanden sind.

## APPLICATION DES DECALCOMANIES

1. Découpez la décalcomanie de sa feuille.
2. Plongez la décalcomanie dans de l'eau tiède pendant 10 secondes environ et poser sur un linge propre.
3. Retenez la feuille de protection par le côté et glissez la décalcomanie sur le modèle réduit.
4. Placez la décalcomanie à l'endroit voulu en lamouillant avec un de vos doigts.
5. Pressez doucement la décalcomanie avec un tissu doux jusqu'à ce que l'eau en excès et les bulles aient disparu.

# MARKING

**A** 海兵隊 第1戦車大隊 B中隊 1950年9月 仁川  
Company B, 1st Tank Bttn., U.S. Marine, September 1950 Inchon



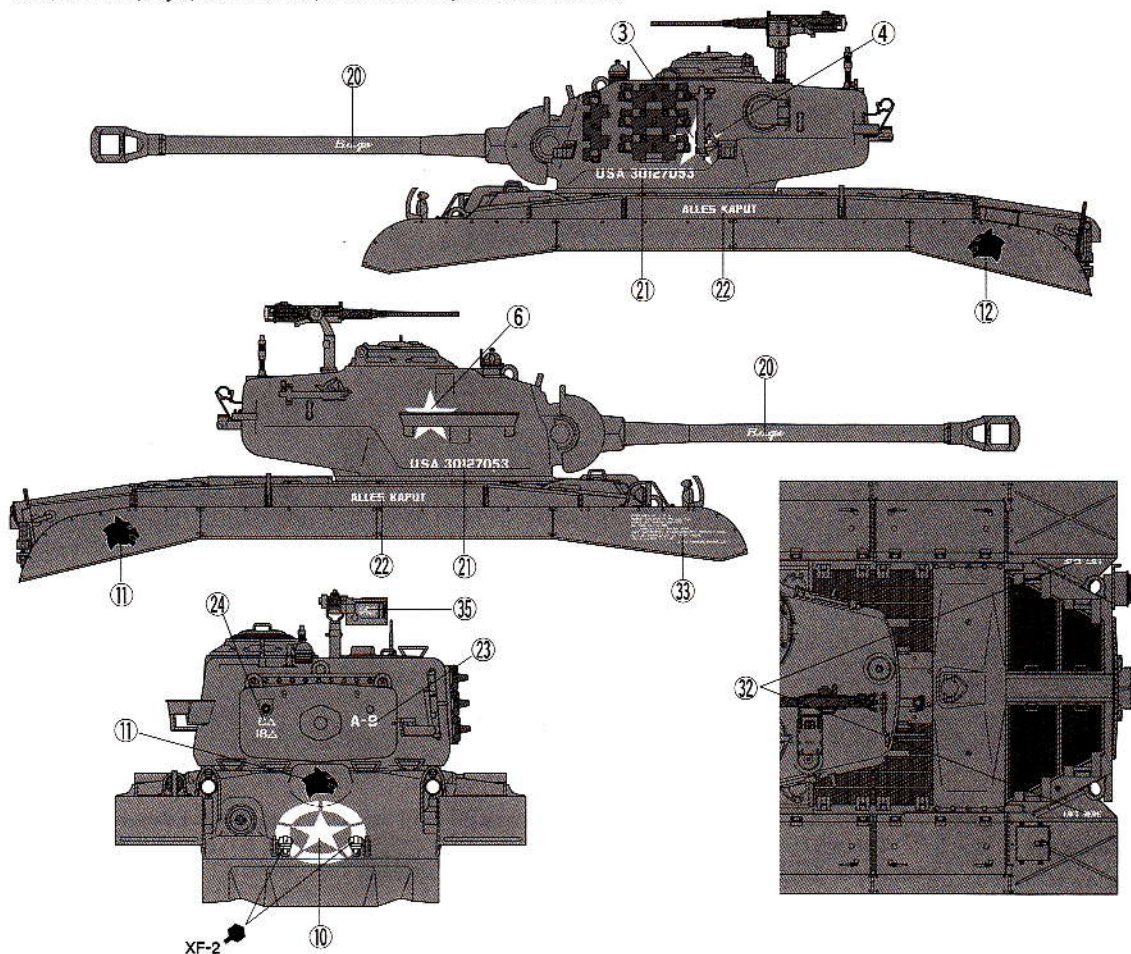
★この車両の所属していた海兵隊第1戦車大隊は1950年8月2日に釜山港へ揚陸された後、仁川上陸作戦に出動。仁川を防衛していた北朝鮮軍第42戦車連隊のT34/85を多数撃破し、続くソウル奪回作戦でも火力支援に奮戦しました。

★The 1st Tank Battalion, U.S. Marine, in which this tank belonged to, landed on Pusan port on August 2nd in 1950. Destroying many T34/85s of the North Korean 42nd Armor Regiment in Inchon Landing, this tank engaged in fire support to recapture the capital, Seoul.

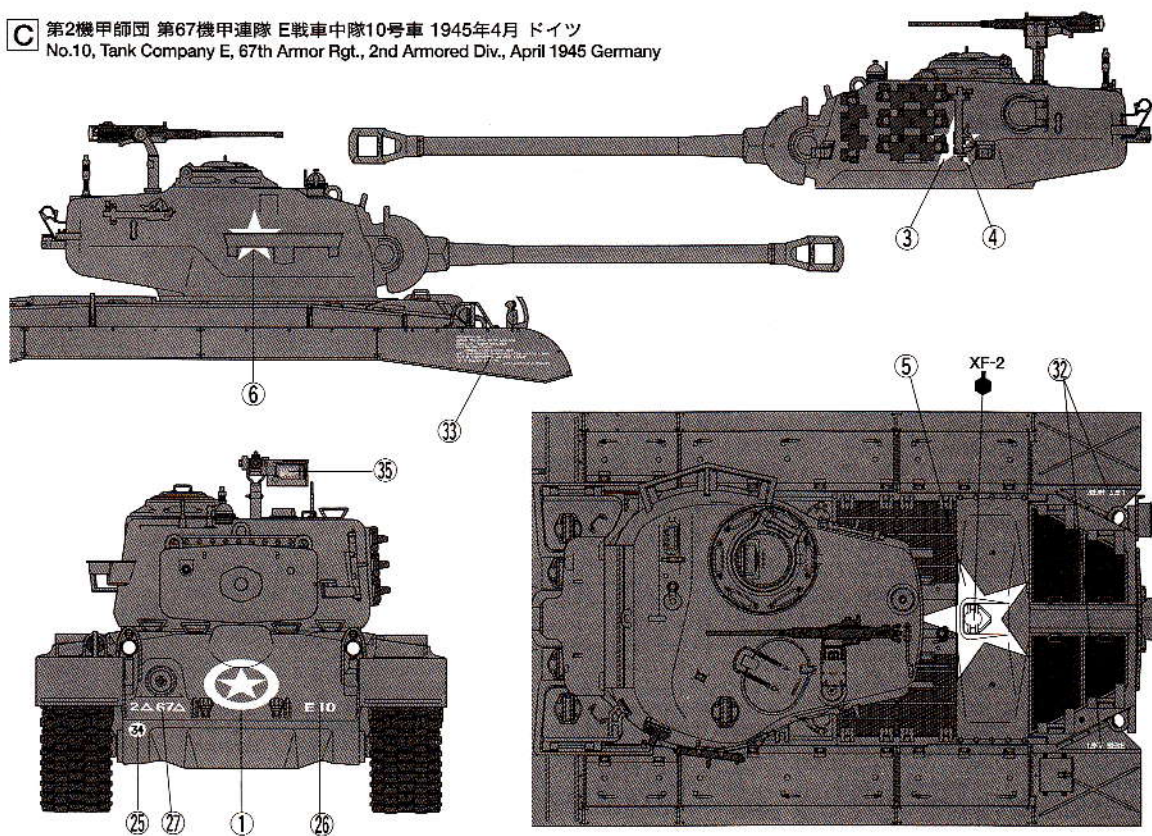
★Das 1. Panzerbattalion der U.S. Marine, zu welchem diese Panzer gehörte, legte am 2. August 1950 im Hafen von Pusan an. Unter Zerstörung vieler T34/85er des Nordkoreanischen 42. Panzerregiments an der Inchon Landungsbrücke, war diese Panzer im Feuerschutz zur Rückeroberung der Hauptstadt Seoul tätig.

★Le 1er Tank Battalion du Marine Corps auquel appartenait ce char débarqua dans le port de Pusan le 2 août 1950. Ayant détruit plusieurs T34/85 du 42<sup>ème</sup> Régiment Blindé Nord-Coréen durant le débarquement d'Inchon, il participa à l'appui des troupes lors de la reconquête de la capitale, Seoul.

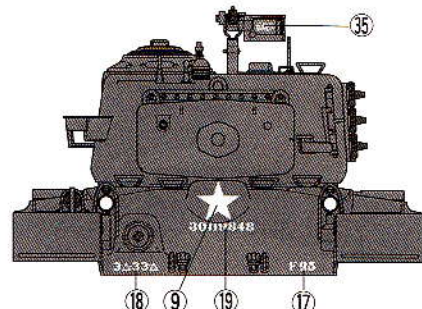
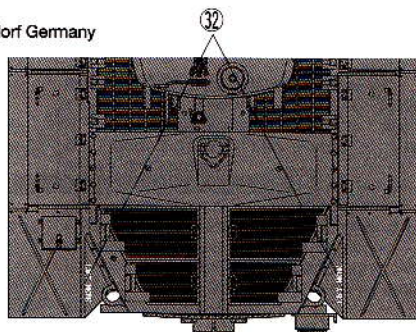
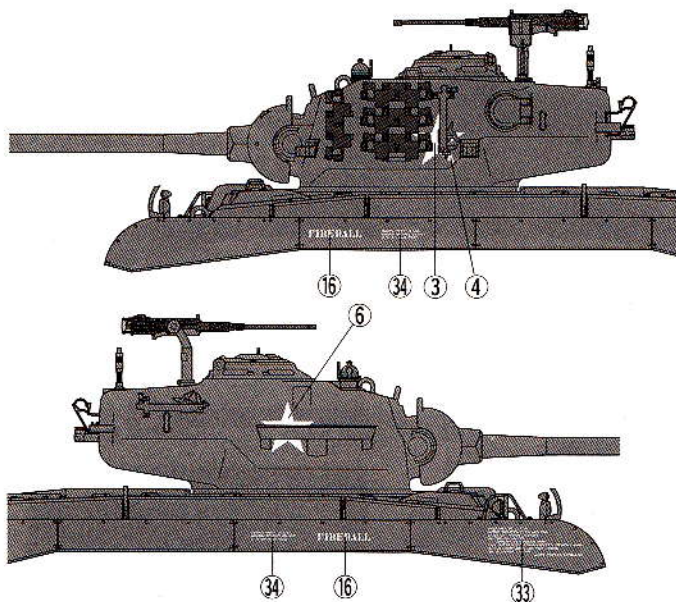
**B** 第8機甲師団 第18戦車大隊 A戦車中隊 9号車 1945年 チェコ・スロバキア  
 No.9, Tank Company A, 18th Tank Bttn., 8th Armored Div., 1945 Czech Slovakia



**C** 第2機甲師団 第67機甲連隊 E戦車中隊10号車 1945年4月 ドイツ  
 No.10, Tank Company E, 67th Armor Rgt., 2nd Armored Div., April 1945 Germany

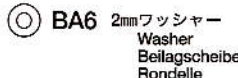
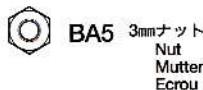
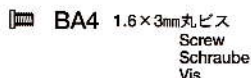
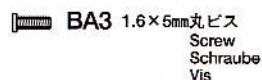
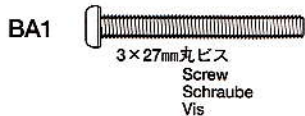


**D** 第3機甲師団 第33機甲連隊 F戦車中隊 第2小隊5号車 1945年2月ドイツ エルスドルフ  
No.5, 2nd Platoon, Tank Company F, 33rd Armored Rgt., 3rd Armored Div., February 1945 Elsdorf Germany



★タイガー1との初対戦で、約100mの至近距離から88mm砲弾3発の直撃を受けて撃破された車輛（製造番号38号車）です。この車輛はM26装甲戦車回収車によって後送され、損傷を受けた主砲などを換装した後に戦列へ復帰しました。  
★This marking is the same as the box art. The first Pershing knocked down by Tiger I at Elsdorf, Germany. This tank sustained three hits from a Tiger I's 88mm gun fired at only 90m range.  
★Die Markierung ist die gleiche wie auf dem Kunststuck der Schachtel. Der erste Pershing wurde bei Elsdorf von einem Tiger I zur Strecke gebracht. Dieser Panzer musste drei Treffer der Tiger I 88mm Kanone aus einer Entfernung von nur 90m einstecken.  
★Ces marquages sont ceux de l'engin illustré sur la boîte, le premier Pershing mis hors de combat par un Tiger I à Elsdorf, Allemagne. Ce char reçut trois coups au but du 88mm d'un Tiger I distant de 90 mètres seulement. Inté n'est spécifiée, peindre dans la teinte du fuselage. Se reporter à la page 8 et 9.

(金具)  
Metal parts  
Metall Teile  
Pièces métalliques



## 部品請求について

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーが貼られたカスタマーサービス取次店でご注文いただけます。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法でご注文することができます。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

### タミヤカスタマーサービス取次店

パーツのお取り寄せに大変便利なお店です。



《イタレリ製キットご購入について》  
イタレリ製キットのご注文は当社カスタマーサービスで、カタログもご用意しております。詳しくはお電話でお問い合わせください。

### AFTER MARKET SERVICE CARD

When purchasing Tamiya replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified and supplied. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

Parts code	ITEM 35254
0333462	Lower Hull
0003666	A & B Parts (1 pc.)
0003667	D Parts
0003573	E Parts
9003563	F & G Parts
0003689	H Parts
0223078	X Parts
0443205	Track
9403091	Metal Parts Bag
0443013	Poly Cap (Large, 16 pcs.)
9442022	Poly Cap (Small, 10 pcs.)
9493007	Decal

- ①《現金書留のご利用法》  
下のカードにあなたの氏名、住所、郵便番号、電話番号をしっかりと記入してください。必要部品を○でかきこみ、代金を現金書留または、定額小為替（100円以下は切手可）と一緒に申し込みください。
- ②《郵便振替のご利用法》  
郵便局の払込用紙の通信欄に下のカードを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、数量を必ずご記入ください。振込人住所欄には電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・田宮模型でお振込ください。
- ③《電話でのご注文もご利用いただけます》  
パーツ代金に加えて代引き手数料（315円）

をご負担いただければ、代金着払いにより電話でのご注文も承ります。  
④《タミヤカード》  
タミヤカードを利用されますと部品の入手が早く簡単です。詳しくは、カスタマーサービスまでお問い合わせください。

《お問い合わせ番号》

静岡 **054-283-0003**  
東京 **03-3899-3765** (静岡へ自動転送)  
営業時間/平日 (月～金曜日) ▶8:00～20:00  
土、日、祝日 ▶8:00～17:00

●タミヤのホームページには豊富な情報が満載です。ぜひご覧ください。

[www.tamiya.com](http://www.tamiya.com)

## M26 U.S. MEDIUM TANK (1:26.5)

### 1/35 M26パーシング

車体下部	490円	0333462
A・Bパーツ (1枚)	520円	0003666
Dパーツ	660円	0003667
Eパーツ	320円	0003573
F・Gパーツ	580円	9003563
Hパーツ	570円	0003689
Xパーツ	380円	0223078
キャタピラ	480円	0443205
金具袋詰 (ポリキャップ含む)	300円	9403091
ポリキャップ (大・16個)	170円	0443013
ポリキャップ (小・10個)	200円	9442022
マーク	230円	9493007
説明図	320円	1053333

★上記の価格は予告なく変更となる場合があります。

ITEM 35254 For Japanese use only!

住所

電話 ( ) -

氏名

